

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年2月2日

【四半期会計期間】 第62期第3四半期（自平成27年10月1日至平成27年12月31日）

【会社名】 N D S 株式会社

【英訳名】 NDS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 伊藤 卓志

【本店の所在の場所】 名古屋市中区千代田二丁目15番18号

【電話番号】 (052)263 5031

【事務連絡者氏名】 執行役員財務部長 中村 均

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝一丁目10番11号

【電話番号】 (03)5444 2320

【事務連絡者氏名】 執行役員東京支社長 家田 信吾

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）  
株式会社名古屋証券取引所  
（名古屋市中区栄三丁目8番20号）  
N D S 株式会社東京支社  
（東京都港区芝一丁目10番11号）  
N D S 株式会社静岡支店  
（静岡市葵区川合三丁目25番25号）  
N D S 株式会社岐阜支店  
（岐阜市西改田字川向164番地）  
N D S 株式会社三重支店  
（津市住吉町14番28号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期 第3四半期連結 累計期間	第62期 第3四半期連結 累計期間	第61期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (百万円)	52,193	52,725	72,893
経常利益 (百万円)	1,552	2,199	2,810
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	1,139	1,425	1,745
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,626	1,934	2,662
純資産額 (百万円)	37,103	38,959	38,135
総資産額 (百万円)	59,295	61,293	63,289
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	19.26	24.12	29.50
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	18.68	23.41	28.60
自己資本比率 (%)	58.8	60.0	56.7

回次	第61期 第3四半期連結 会計期間	第62期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	6.19	10.91

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済政策・金融緩和政策を背景に、企業収益や雇用環境の改善が図られ、緩やかな回復基調が続いておりますが、中国をはじめとする海外景気の下振れなどに影響されることが懸念されます。

当社グループの事業に大きく関係する情報通信分野では、光ブロードバンドサービスの普及・拡大やモバイル通信サービスの高速化・大容量化等が進展し、NTTグループの光コラボレーションモデルやMVNO市場の拡大等、新たな需要拡大の動きがみられるほか、IoTの進展やクラウドサービス拡大等、ICTを活用した多様なサービスが展開されています。また、政府が推し進める国土強靱化や地方創生に向けた施策に伴い、社会インフラ・環境の整備が進展しつつあります。

このような事業環境のなか、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、通信事業各社からの受注減少の影響があったものの、ICTソリューション事業の拡大等により受注高542億100万円（前年同期比97.7%）、売上高527億250万円（前年同期比101.0%）、営業利益19億240万円（前年同期比155.1%）、経常利益21億990万円（前年同期比141.7%）、親会社株主に帰属する四半期純利益14億250万円（前年同期125.0%）となりました。

なお、第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の概況は次のとおりです。

#### 総合エンジニアリング事業

通信事業各社の設備投資の減少等に伴い、前年同期に比べて受注高、売上高は減少しましたが、営業利益は原価改善の取り組み等により増加しました。

#### ICTソリューション事業

システム開発や半導体製造装置保守等の拡大により、受注高、売上高、営業利益は前年同期に比べいずれも増加しました。

#### 住宅不動産事業

販売物件が少なく売上高は減少しましたが、コスト低減等により、営業利益は前年同期に比べ増加しました。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた問題はありません。

#### (3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費は390万円です。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	128,300,000
計	128,300,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年2月2日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	62,962,988	同左	東京証券取引所 名古屋証券取引所 各市場第一部	単元株式数は1,000株で あります。
計	62,962,988	同左	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

当第3四半期会計期間において、新たに発行した新株予約権はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年11月30日 (注)	3,000,000	62,962,988	-	5,676	-	4,425

(注) 自己株式の消却による減少であります。

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成27年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 6,517,000 (相互保有株式) 普通株式 323,000	-	単元株式数は 1,000株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 58,493,000	58,493	同上
単元未満株式	普通株式 629,988	-	1単元(1,000株)未満 の株式であります。
発行済株式総数	65,962,988	-	-
総株主の議決権	-	58,493	-

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権2個)含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己株式239株及び証券保管振替機構名義の株式348株が含まれております。
- 3 直前の基準日(平成27年9月30日)の後、平成27年10月30日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,495,000株の取得及び平成27年11月30日付で自己株式3,000,000株の消却を行ったことなどにより、当第3四半期会計期間末日現在の発行済株式総数は62,962,988株となっております。

【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) N D S 株式会社	名古屋市中区千代田 二丁目15番18号	6,517,000	-	6,517,000	9.87
(相互保有株式) 株式会社東海通信資材 サービス	名古屋市中区千代田 二丁目15番18号	154,000	133,000	287,000	0.43
(相互保有株式) 日本協同建設株式会社	亀山市阿野田町 1036番地3	36,000	-	36,000	0.05
計	-	6,707,000	133,000	6,840,000	10.36

- (注) 1 株式会社東海通信資材サービスの「他人名義所有株式数」は、当社の取引先で構成される持株会(N D S 取引先持株会 名古屋市中区千代田二丁目15番18号)によるものであります。
- 2 当第3四半期会計期間末日現在における当社の自己保有株式数は4,973,676株であります。

## 2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

### 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
常務取締役 経営企画本部長	常務取締役 N T T 事業本部長兼経営 企画本部長	安 部 宏	平成27年 8 月 5 日
取締役 N T T 事業本部長	取締役 N T T 事業本部 名古屋支 店長	佐 藤 信 久	平成27年 8 月 5 日

## 第4【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	8,896	7,533
受取手形・完成工事未収入金等	21,049	2 17,642
リース債権及びリース投資資産	1,835	2,350
未成工事支出金	233	438
仕掛品	6	46
仕掛販売用不動産	1,152	1,460
販売用不動産	58	219
商品	257	392
材料貯蔵品	624	612
繰延税金資産	710	358
その他	548	719
貸倒引当金	130	71
流動資産合計	35,242	31,702
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物（純額）	4,734	4,637
機械、運搬具及び工具器具備品（純額）	2,285	2,315
土地	8,405	8,739
貸与資産（純額）	356	306
建設仮勘定	2	162
有形固定資産合計	15,784	16,162
無形固定資産	421	360
投資その他の資産		
投資有価証券	10,137	10,932
長期貸付金	84	119
繰延税金資産	160	152
その他	1,582	2,020
貸倒引当金	124	156
投資その他の資産合計	11,841	13,068
固定資産合計	28,047	29,591
資産合計	63,289	61,293

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形・工事未払金等	6,281	4,687
短期借入金	3,439	3,561
リース債務	144	150
未払法人税等	568	154
未成工事受入金	245	153
賞与引当金	1,529	688
役員賞与引当金	40	-
工事損失引当金	30	29
その他	2,418	2,216
流動負債合計	14,698	11,642
<b>固定負債</b>		
長期借入金	5,436	5,455
リース債務	307	454
繰延税金負債	262	627
役員退職慰労引当金	271	257
退職給付に係る負債	3,766	3,506
その他	410	391
固定負債合計	10,456	10,692
負債合計	25,154	22,334
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	5,676	5,676
資本剰余金	4,425	4,425
利益剰余金	24,659	24,523
自己株式	2,134	1,655
株主資本合計	32,626	32,969
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	3,030	3,601
退職給付に係る調整累計額	222	205
その他の包括利益累計額合計	3,253	3,806
新株予約権	345	327
非支配株主持分	1,909	1,855
純資産合計	38,135	38,959
負債純資産合計	63,289	61,293

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高		
完成工事高	38,730	36,690
兼業事業売上高	13,462	16,034
売上高合計	52,193	52,725
売上原価		
完成工事原価	35,605	33,595
兼業事業売上原価	10,858	12,854
売上原価合計	46,463	46,449
売上総利益		
完成工事総利益	3,125	3,095
兼業事業総利益	2,603	3,180
売上総利益合計	5,729	6,275
販売費及び一般管理費	4,488	4,351
営業利益	1,240	1,924
営業外収益		
受取利息	19	18
受取配当金	183	199
受取賃貸料	102	83
持分法による投資利益	19	1
その他	165	120
営業外収益合計	490	423
営業外費用		
支払利息	72	61
賃貸費用	91	76
その他	14	10
営業外費用合計	178	148
経常利益	1,552	2,199
特別利益		
固定資産売却益	4	9
投資有価証券売却益	14	9
負ののれん発生益	335	-
その他	1	-
特別利益合計	354	18
特別損失		
固定資産処分損	42	34
関係会社株式売却損	82	-
減損損失	11	-
その他	3	-
特別損失合計	139	34
税金等調整前四半期純利益	1,767	2,183
法人税、住民税及び事業税	204	342
法人税等調整額	467	463
法人税等合計	671	806
四半期純利益	1,095	1,377
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	44	47
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,139	1,425

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	1,095	1,377
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	482	605
退職給付に係る調整額	13	17
持分法適用会社に対する持分相当額	34	31
その他の包括利益合計	530	556
四半期包括利益	1,626	1,934
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,669	1,978
非支配株主に係る四半期包括利益	43	43

## 【注記事項】

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)  
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

従来、総合エンジニアリング事業において「完成工事高」に含めて表示していた一部の売上高について、重要性が増加していることから、実態に即した表示を行うため、第1四半期連結累計期間より「兼業事業売上高」に含めて表示することに変更し、関連する売上原価、売上総利益についても、「完成工事原価」、「完成工事総利益」から「兼業事業売上原価」、「兼業事業総利益」に含めて表示することといたしました。この表示方法の変更を反映するため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「完成工事高」に含めていた2,538百万円、「完成工事原価」に含めていた2,138百万円及び「完成工事総利益」に含めていた399百万円を、それぞれ「兼業事業売上高」、「兼業事業売上原価」及び「兼業事業総利益」に組替えております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

(1) 保証債務

従業員の住宅資金の借入に対し、債務の保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
	0百万円	0百万円

(2) 保証予約

連結子会社が取引先におけるリース債務に対し、保証予約を行っております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
	149百万円	111百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
受取手形	- 百万円	13百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
減価償却費	1,188百万円	1,038百万円
のれんの償却額	17	17

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	414	7	平成26年3月31日	平成26年6月25日
平成26年11月7日 取締役会	普通株式	利益剰余金	296	5	平成26年9月30日	平成26年12月1日

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	297	5	平成27年3月31日	平成27年6月25日
平成27年10月30日 取締役会	普通株式	利益剰余金	297	5	平成27年9月30日	平成27年12月7日

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成27年10月30日開催の取締役会決議に基づき、当社普通株式1,495,000株を総額499百万円にて取得し、自己株式としました。また、同日開催の取締役会決議に基づき、平成27年11月30日付で、自己株式3,000,000株の消却を実施しており、利益剰余金及び自己株式がそれぞれ962百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	総合エンジニアリング 事業	ICT ソリューション事業	住宅不動産 事業			
売上高						
(1)外部顧客への売上高	39,907	11,440	845	52,193	-	52,193
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	41	1,067	5	1,114	1,114	-
計	39,948	12,507	850	53,307	1,114	52,193
セグメント利益	649	541	29	1,220	20	1,240

(注)1 セグメント利益の調整額20百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要な減損損失はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「総合エンジニアリング事業」セグメントにおいて、連結子会社である愛知NDS株式会社及び静岡NDS株式会社の株式を追加取得した事により、当第3四半期連結累計期間において負ののれん発生益248百万円を計上しております。

「ICTソリューション事業」セグメントにおいて、連結子会社であるNDSソリューション株式会社が少数株主から自己株式を取得した事により、当第3四半期連結累計期間において負ののれん発生益86百万円を計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	総合エンジニアリング 事業	ICT ソリューション事業	住宅不動産 事業			
売上高						
(1)外部顧客への売上高	39,494	12,594	637	52,725	-	52,725
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	284	891	0	1,176	1,176	-
計	39,778	13,485	638	53,901	1,176	52,725
セグメント利益	1,062	829	49	1,941	16	1,924

(注)1 セグメント利益の調整額 16百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年12月31日)
(1) 1 株当たり四半期純利益金額	19円26銭	24円12銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,139	1,425
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,139	1,425
普通株式の期中平均株式数(千株)	59,169	59,083
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額	18円68銭	23円41銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	1,857	1,793
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	該当事項はありません。	該当事項はありません。

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

2【その他】

第62期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)中間配当につきましては、平成27年10月30日開催の取締役会におきまして、平成27年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 中間配当金総額 297,228,745円

(ロ) 1株当たりの額 5円00銭

(ハ) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成27年12月7日

(注)平成27年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主に対し、支払いを行っております。

**第二部【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 2 月 2 日

N D S 株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 奥 谷 浩 之 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 大 谷 浩 二 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているN D S 株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、N D S 株式会社及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。